

## 「能登白ねぎ」産地再興のため、若手生産者の育成に取り組んでいます

中能登農林総合事務所

12月13日に、中能登農林総合事務所が中心となった呼びかけにより、「JA能登わかば能登白ねぎ部会」の若手生産者4名が「能登白ねぎ勉強会」を立ち上げました。現在、七尾市、中能登町を代表する能登特産野菜である能登白ねぎの売上げが、最盛期の年間1億円超から現在の年間約3千万円まで落ち込んでおり、産地の将来を見据えた今後を担う生産者の育成活動の必要性が立ち上げの背景にあります。

12月16日に、第1回目の活動としてメンバー達は管内の先進的な大規模生産者を視察し、緑肥作物やかんしょ（さつまいも）の作付による土づくりの取組や、産地で見かけないタイプの皮むき機、根切り葉切り機等を実際どのように使っているかを学びました。この活動により、メンバーの知見が広がった様子でした。

1月30日に、第2回目の活動として農林事務所が肥料メーカーを招いて土づくり学習会を開催しました。堆肥による土づくりをしっかりと行うことにより、ねぎの生育が促進されることを学んだメンバー達は、次年度の生産量拡大に向けて意欲を燃やしていました。

3月10日に、第3回目の活動として農林事務所が「弾丸暗きょ」の施工実証をメンバーのほ場で開催しました。「弾丸暗きょ」とは、地中に筒状の小さな穴を開けほ場の排水性を向上させる技術のことです。今回はベテラン農家も多く見学に訪れ、収量向上に向け産地が一体となった取組みにつながりました。今後、弾丸暗きょを施工していないほ場と施工しているほ場とで生育状況を比較調査し、さらに現地検討会を開催するなどの活動によって、弾丸暗きょの効果を実証し、若手生産者へ排水対策の徹底を普及していく予定です。

これからも月1回程度のペースで他産地の視察や栽培基礎技術の学習会等を開催し、若手生産者の収入確保につなげ、産地再生の一助にしていきます。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所 農業振興部  
(0767-52-5522)



管内のねぎのほ場



大規模生産者の出荷作業を見学する様子



土づくりについて学ぶ様子



メンバーが弾丸暗きよにチャレンジ！